

149号

10月例会のお知らせ

日 時： 11月6日(日曜日)
 場 所： 府中町屋倶楽部に12時50分集合
 車で相乗りして行きます。
 内 容： 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 行き
 企画展「花咲く城下町一乗谷 - 花の下に集う中世の人々」
 2時からの企画展講座を聴きます。
 「一乗谷出土の掛花生」 資料館副館長 水野和雄氏

お願い：11月23日夕方4時から例年通り「絵暦」のケース組み立て
 作業を行いますので、予定に入れておいてください。

空気が澄んだ気持ちのよい日が続いております。先月の例会は、悠久ロマンの杜で蕎麦打ちを楽しみました。さて今月は来月にずれ込みますが、企画展の講座に出席したいので、11月6日に例会を行うことにいたします。

今年は国民文化祭が行われることもあり、朝倉氏資料館では、38年にわたる発掘調査で出土した花瓶と、花に関わる資料を展示し、戦国時代この越前の地に、いかに京文化が花開いていたかを知ることが出来る企画展を開催しています。

天正元年(1573)織田信長の軍勢による放火によって、5代100余年にわたり城下町として栄えた一乗谷は焼亡しました。その後天正3年に柴田勝家が北の庄に築城を始めると一乗谷は急速に寂れ、土に埋もれ水田化し始めました。幸いにもこの水田化されたことによって、約400年経った今、信長に滅ぼされた当時の生活そのまが私たちの前に示されることになりました。発掘点数は150万点以上にも達し、数年後にはそのうちの2,000点以上が国の重要文化財に指定されると聞いています。発掘が始まった昭和42年ごろは、「戦国村」という認識でしたが、いまや「日本一の戦国城下町一乗谷」と言われています。

今回の展示されている富小路資直の『詠三十一

首和歌』(資直は公家で都の多芸な文化人。これは天文4年の2月から3月にかけて、越前に下向した際の和歌と紀行文。一乗谷の当時の様子がよく綴られている)には次のように書かれています。
 「むかし紫式部、しおつ山をこゆとて世にふる道は、と読みし事をおもひ出て、その所をたづねさせければ、ここよりはすこしへだたりたるかたことたへ侍りけるに・・・一乗といふ所にゆきつきては、人しげくまさる事のみ有て、・・・枕ちかくかめにさしたる桜の花のかたはら・・・人の八重さくらを折てみせけるに、・・・

来てみれば柳さくらの春の園

都のけしきたちもをよばじ」

京の都から一乗谷を訪れた公家が、その人通りの多さ、桜の一枝を折って差し出す風流なしぐさ、床飾りの豪華さに驚いていることから、当時の一乗谷の文化の高さがしのばれます。

福井県建築士会からのお知らせ

町屋を生かした街づくり見学・講演会ご案内

見学会：11月15日(土)13:00~14:30

蔵の辻あずまや付近に13時集合

講演会：同日14:30~17:00

市役所裏の東公民館

「民家の再生・活用で街づくり」